



くらよし
鳥取県倉吉市

農林漁業・農山
漁村文化体験

食育・教育

山口	島根	鳥取
	広島	岡山
愛媛		香川
		徳島
高知		

とっとりちゅうおう
No.1 JA鳥取中央 あぐりキッズスクール

～ ふれて・感じて・楽しんで～

農業高校の生徒と一緒に乗馬体験



梨「二十世紀」の収穫体験



稲作体験(田植え)

取組経緯

- 鳥取県中部は平野、大山山麓、砂丘地等、様々な自然環境とそれらを活かした多様な農産物が凝縮された地域。
- 未来を担う子供たちに、この優れた自然環境を生かした農業・食文化等を、「農業の大切さ」「食の大切さ」「命の大切さ」として農業体験学習を通じて伝えたいという思いから取組を開始。

取組概要

- 親子での田植え、稲刈り、はで掛け、餅つき、しめ縄作りなどの農業体験を毎月実施。
- 生産者の協力も得て、地域の特産物、選果場の施設見学のほか、特産品での加工品作りなど、幅広いカリキュラムを地域ごとに分けて提供。
- 地元農業高校(倉吉農業高校)と連携し、生徒が年間を通してあぐりキッズスクールの補助員として協力。

取組成果

- 活動はJA広報誌や新聞等で取り上げられ、人間力を養う場として地域に広く認知。例年80～90名の生徒が参加。
- 農作業を通じて地産地消や食育の関心が向上。



やすぎし
島根県安来市

山	島根★	鳥取
	広島	岡山
媛	愛媛	香川
		徳島
	高知	

定住・移住

6次産業化

女性・高齢者の活躍

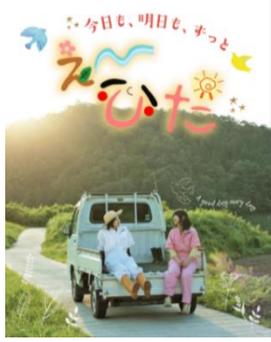
No.2 えーひだカンパニー株式会社

～住民の住民による住民のための株式会社設立～

えーひだ定住BOOK(定住促進)



えーひだカンパニー設立総会



地元産野菜を使った野菜ドレッシング

取組経緯

- 少子高齢化等による地区存続の危機感から、地区機能維持の仕組みを創るため、88個の戦略プランからなる比田地域ビジョンを平成28年3月に策定。
- ビジョン実現のため、地域住民74名の構成員により平成29年3月、えーひだカンパニー株式会社を設立。

取組概要

- ドローンを導入して、水稲防除作業を請け負い、地域内雇用を創出。
- 地元の女性等が地場産野菜を使い、着色料、保存料不使用の安全安心なドレッシングを開発し販売。地場産の米や小麦による米ゲル商品やパンの開発も進行中。
- 定住促進として、パンフレット「えーひだ定住BOOK」を作成し、移住者の誘致活動を実施。

取組成果

- 活動の趣旨説明と事業の実績を積むことで、会員数が74名から78名に増加(H29→H30)。
- 産業用ドローンを購入し、カンパニーが水稲の防除剤散布を請け負い雇用を創出(6名)。防除面積も80haから110ha増加(H29→H30)。



たかはし
岡山県高梁市

山口	島根	鳥取
	広島	★岡山
愛媛	香川	徳島
	高知	

6次産業化

女性・高齢者の活躍

学生・若者の活躍

うじ
No.3 一般社団法人宇治雑穀研究会

～もち麦ビールで地域活性化～



宇治雑穀研究会のメンバー

地元高校生のもち麦栽培体験



もち麦ビール「花笠」ともち麦商品(粉・粒・麦茶)

取組経緯

- 高齢化と担い手不足により耕作放棄地が増加していくなか、耕作放棄地解消のための作物を模索。
- 平成24年宇治雑穀研究会が結成され、キビ、黒米等の雑穀を栽培、販売することで、高齢者の生きがいがつくりと耕作放棄地解消の取り組みを開始。

取組概要

- 平成24年から高齢者でも比較的手軽に取り組みが可能なもち麦(キラリモチ)の栽培を始め、平成29年からは有利販売のための「特別栽培」を開始。
- 平成29年には、もち麦の加工品開発により、「もち麦ビール」の委託醸造、販売を開始。
- 地元高校生と連携した農業体験の実施やもち麦の利用方法の協働研究を行う。

取組成果

- もち麦の収穫量は、200kgから2,854kgに増加し、栽培面積も10aから143aに拡大(H25→H29)。
- もち麦ビールなどの麦商品売上は、1.2万円から159万円に増加(H25→H29)。
- 6次産業化に取り組むことで、高齢者・女性・若者の活躍の場が創出。



すおうおおしまちょう

山口県周防大島町

山口	島根	鳥取
	広島	岡山
愛媛		香川
		徳島
高知		

農泊

農林漁業・農山漁村文化体験

食育・教育

すおうおおしまちょう

No.4 周防大島町体験交流型観光推進協議会

～体験型修学旅行で交流人口の増加を目指そう～



みかんの収穫体験

地元の魚を使った家庭料理体験



ホストファミリーとのお別れ

取組経緯

○新たな体験交流型観光で、町の基幹産業である農業や漁業などの1次産業と観光交流を結びつけた新たな産業につなげるため、平成20年から周防大島町体験交流型観光推進協議会を設立し、体験型教育旅行の誘致を開始。

取組概要

○平成20年から主に中高生の修学旅行の誘致を開始。
 ○農業・漁業の担い手が、ホームステイの受入家庭や体験のインストラクターになり、みかん栽培や、いわし網漁等を都市部の生徒等に体験してもらう活動を実施。

取組成果

○体験提供で得られた対価は、体験インストラクターの副収入となっており、農家・漁家の所得向上に寄与。
 ○地域住民には元気や生きがいを、生徒には農漁業の現状や大切さを実感してもらう場を提供。
 ○就学旅行で受け入れた学生数は2,438名から4,114名に増加(H25→H29)。受け入れた学校数も18校から30校に増加(H25→H29)。



しものせきし
山口県下関市

山口	鳥根	鳥取
	広島	岡山
	愛媛	香川
		徳島
	高知	

鳥獣被害
防止

地元食材の
提供・活用

6次産業化

しずかしよくひん
No.5 静食品株式会社

～長州ジビエを日本一のジビエブランドに！～



長州ジビエのくんせいとウインナー

長州ジビエの紹介ポスター



平成30年 維新150周年記念
下関ブランド認定証

取組経緯

- 獣害による農作物の被害が大きくなり、その防止のため、猟友会が駆除にあたったが、処理施設がなく大半が廃棄。
- 平成25年4月より、下関市中山間地域ジビエ有効活用拠点「みのりの丘ジビエセンター」の指定管理業者に指定され、平成28年4月より指定管理2期目となる。

取組概要

- ジビエセンター開設と同時に指定管理業者としてイノシシ・シカの処理を開始。
- 施設で解体したジビエを自社で食肉加工し、ウインナー等加工品を製造販売。
- ジビエのブランド化による販路拡大を目指し、ポスターによる啓発や、地元をはじめ、首都圏での販売促進を強化。

取組成果

- センターに持ち込めば処理してくれるという猟友会の信頼を獲得。センターでの鹿、猪の処理頭数は、552頭から717頭に増加(H25→H29)。
- 積極的なPR活動により、ジビエに対する評価が高まり販売も好調に推移。食肉・加工品の売上は、577万円から1,400万円に増加し、販売先も20件から70件へ増加(H25→H29)。



ながとし 山口県長門市

山口	島根	鳥取
	広島	岡山
	愛媛	香川
		徳島
	高知	

地元食材の
提供・活用

6次産業化

企業・地域住民・
大学との連携

ろくさんでいーねっと No.6 株式会社63Dnet

～地域連携した6次産業化による新たな農業～

地元野菜を地元で販売・購入できる場の提供
(直販店舗LaLaフラン)



新規就農から販売まで
地元農家を総合的に支援



山口県産小麦使用のララベーカリー

取組経緯

- より効率よく6次産業化を実現し所得向上を目的として、農家が出資し地域の異業種事業者に声をかけ、平成25年に協同組合を設立。
- 平成27年7月、協同組合は、「63Dnet」を分社化し、これまで脆弱だった農産物と加工商品の販売部門を強化。

取組概要

- 地域の農家から農産物を集荷し、道の駅などに卸売を実施。
- 直販店舗「LaLaフラン」を開店。地域農産物や加工品を販売。
- 平成29年、道の駅内に「ララベーカリー」をオープン。県内産の小麦粉など地元食材を優先的に使った商品を販売。

取組成果

- 農家と異業種事業者が集まり共同で行うことで、農産物の商品開発・加工が安価で容易となるとともに、6次産業化に不可欠な販売を共同展開することで、販路拡大が実現。
- 直営店舗を道の駅内にオープンしたことで売上が1,894万円から6,412万円に増加(H27→H29)。



さんようおのだし
山口県山陽小野田市

山口	島根	鳥取
	広島	岡山
愛媛	香川	徳島
	高知	

食育・教育

雇用

女性・高齢者の活躍

No.7 有限会社グリーンハウス

～ネギパワーで職場に笑顔を、地域を笑顔に！～

地元小学校の社会見学



女性パートによるネギの調整作業



生産した野菜の包装センター

取組経緯

- 米や麦などを中心とした経営から、より収益性の高い品目として、平成4年からハウスで小ネギの栽培を開始し、平成6年に「(有)グリーンハウス」を設立。
- 若者や女性パートを積極的に雇用し、現在は「おのだネギ三昧(商標登録)」として、県内や首都圏へ出荷中。

取組概要

- 地元高校や県立農業大学校と連携を密にし、職場研修の受入れや採用に係る募集活動を積極的に行うなど若者の働く場づくり。
- ハウス面積の拡大を行うとともに、ASIAGAPを取得し、売上の向上や職場環境を改善。
- 女性活躍に向けた働きやすい職場環境の整備(産前産後休暇やパートから社員への登用等)など女性労働環境の改善。
- 社会見学や職場体験、農業高校のインターンシップを積極的に受入れるなど地域教育の実施。

取組成果

- 生産した野菜の売上は、約1.7億円から約2.4億円に増加(H25→H29)。
- 従業員は、タイ人研修生を含め36名から49名に増加(H25→H29)。22歳～77歳と幅広い年代のパート職員が働いている。



きたじまちょう
徳島県北島町

山口	島根	鳥取
	広島	岡山
愛媛	香川	徳島★
高知		

雇用

6次産業化

その他
(農福連携)

かわうち
No.8 は一とふる川内株式会社

～障がい者(チャレンジド)の力を農業に～

商品化されたドライトマト「愛さんさん」



障がい者によるトマトの茎の誘引作業



ドライトマトの乾燥工程

取組経緯

- 障がい者の新規職域開発としてハウストマトの生産を平成26年7月から開始。
- 農園近くの障がい者支援センターと協働し、平成27年からドライトマトの製造販売(6次産業化)。
- 徳島県が推進する「とくしま安2GAP農産物」認証の優秀認定を平成29年7月に取得。

取組概要

- 障害者就農を目的とした農園(大型ビニールハウス)で中型トマトを水耕栽培。
- 生産したトマトは、企業グループ社員食堂で利用、徳島生協及びショッピングセンター等で販売。
- ドライトマトは、企業や福祉施設で就労する障がい者が連携してトマトの生産、加工、販売を実施。
- 「とくしま安2GAP農産物」認証を取得し、障がい者が安心して働ける作業環境を整備。

取組成果

- 障がい者就労支援センターへの業務委託により、工賃向上や利用者の増加が見込まれる。
- 障害者雇用は、3名から6名に増加。トマトの収穫量は、38tから80tに増加(H26→H29)。
- ドライトマトの生産量は、70kgから200kgに増加(H27→H29)。



かみかつちょう
徳島県上勝町

自然・景観・
伝統・継承

6次産業化

輸出

山口

島根

鳥取

広島

岡山

愛媛

香川

徳島★

高知

ばんどう
No.9 株式会社 阪東食品

～人口約1500人の町上勝町から世界に挑戦～



阪東農園で実ったゆず



海外でのPR
アイアンシェフINオペラハウス



海外出展(パリサロンドショコラにてフランスパートナーと)

取組経緯

- 四国の山奥の農家であり、個人事業者が海外でどこまで通用できるのか挑戦してみたかった。
- JETROの輸出セミナー等に参加していたところ徳島県の担当者から上海に行って商品を売ってみたいかと言われたのが取組の契機。

取組概要

- 当初は主に香港・上海等近隣のアジア地域への輸出を目的に活動。
- 上海へポン酢を初めて輸出。
- ヨーロッパの展示会に参加し、ゆず果汁を中心にPR。
- 和の柑橘の海外での定着と、自社及び徳島県の柑橘のブランドカアップを目指し活動を展開。

取組成果

- 加工商品(ゆず・すだち・ゆこう果汁等)の輸出売上は、約29万円から約2,025万円に増加(H25→H29)。
- 輸出量が増えたことで耕作放棄地になりそうな果樹園が減少。



しょうどしまちょう 香川県小豆島町

6次産業化

企業・地域住民・
大学との連携

女性・高齢者
の活躍

山口	島根	鳥取
	広島	岡山
愛媛	香川★	徳島
	高知	

しょうどしましよくだいはいはつかいぎ No.10 小豆島食材開発会議

～島を元気に！「しょうどしま長命草プロジェクト」～



醤油粕を肥料に使った「長命草」の栽培試験

長命草のPR展示会



長命草の加工商品（茶、うどん、素麺、味噌等）

取組経緯

- 島内企業から、新商品開発に繋がる新たな島内産の原料を要望。
- 塩生植物である長命草を選出。醤油粕を活用できる上、軽量で高齢者にも栽培し易く、また、健康長寿の野菜として付加価値が期待できることから、生産者有志、食品企業等を中心に6次化への取組みを開始。

取組概要

- 「小豆島長命草の会」(生産者)が、醤油粕やオリーブ堆肥を施用する試験栽培を行い、栽培技術を確立。
- 小豆島食材開発会議に参加する食品企業・団体が、7種類の新商品を開発・販売。
- 香川大学等で栄養価や機能性を調査。
- 島内外のイベント、展示・商談会へメンバーの企業、農家、普及センターなどが、一丸となって参加し、長命草及び開発した新商品のPRを実施。

取組成果

- 契約栽培した長命草は、地元食品企業が確実に購入するため、小規模でも安定した収入を確保。
- 醤油粕が肥料として活用できたことで、未利用資源の有効活用が図られた。
- 栽培面積は、200㎡から3,300㎡に増加し、生産量は、30kgから4,500kgに増加(H25→H29)。長命草を活用した新商品を7つ開発(H30現在)。



みきちょう 香川県三木町

山口	島根	鳥取
	広島	岡山
愛媛	香川★	徳島
	高知	

ジビエ

6次産業化

女性・高齢者
の活躍

さんなんえいのうくみあい No.11 山南営農組合 農村レストラン部会

～全員参加型の集落営農を牽引する女性クラブ～



農家レストランどんぐりころころ開業

特産品の加工販売



郷土料理を作る姑クラブ

取組経緯

- 農家の高齢化や後継者不足が進行する中、平成16年に50戸の農家、非農家が組合員となる集落営農組織(山南営農組合)を設立し、農業機械の共同化や米や野菜の直接販売に着手。
- 平成20年からは、高品質の農産物のPRや地域の活性化を目的に、女性たちが農家レストラン「どんぐりころころ」を開業。

取組概要

- 地元の減農薬栽培のお米や野菜、猪肉ハンバーグがメインの山鯨御膳を提供。姑クラブがメンバーに加わり、昔ながらの山菜料理、郷土料理を提供。餅やおせち料理の予約販売も好評。
- ブランド化を目指した米や採れたての旬の野菜の他、希少糖(レアシュガースイート)を活用した椎茸佃煮やイチジクジャムを製造し、直売や出稼ぎ営業を実施。

取組成果

- 農家レストランや地域特産品の販売を通じ、役割を明確にし、助け合いながら活動するなど地域の繋がりが強化。
- レストラン売上は、121万円から143万円に、加工商品の売上は850万円から1,100万円に増加(H25→H29)。



ひがし し
香川県東かがわ市

山口	島根	鳥取
	広島	岡山
愛媛	香川★	徳島
高知		

ジビエ

雇用

6次産業化

ごみょうかつせいかきょうぎかい
No.12 五名活性化協議会

～五名に根ざした、五名愛に満ちた五名活性化～



産直市「五名ふるさとの家」

里山整備で伐採した木材を薪に加工



いのしし祭りでの五名ジビエのPR・販売

取組経緯

- 過疎化が進行する山間地で、少子・高齢化により急激に人口が減少していることに、地域住民は危機感を共有。
- 平成17年に五名小学校の廃校を契機に、小学校の跡地利用と地域の活性化を目指す協議会(当時 五名活性化対策委員会)を立ち上げ、持続可能な地域活動に取り組む。

取組概要

- 里山整備に伴って出る木材を、しいたけの原木や薪、炭などに加工して販売。獣害対策で捕獲したイノシシも食肉加工し、五名ジビエとして販売。
- 移住希望者と地域の人との交流の場を設け、五名への移住を地域全体で支援。
- 五名女性部が中心の産直市「五名ふるさとの家」を運営。
- 五名三大祭りの開催。

取組成果

- 里山整備で発生した資源を商品化し、売上は、122万円から471万円に増加(H28→H29)。
- 五名の特産品や加工品を販売する物販施設「五名ふるさとの家」来客数は、2,500人から2,600人に増加(H25→H29)。



うちこちよう
愛媛県内子町

道	島根	鳥取
	広島	岡山
★愛媛	香川	徳島
	高知	

農林漁業・農山
漁村文化体験

定住・移住

企業・地域住民・
大学との連携

いずみだにちく たなだ
No.13 泉谷地区棚田を守る会

～交流ビジネスで生業づくり～



棚田ベランダと棚田

内子みそぎ自然浴ツアー(豊年おどり)



奨学米制度 (しいたけ植菌)

取組経緯

- 泉谷地区の棚田が、平成11年に全国棚田百選に選定。
- これをきっかけに、地域で棚田の機能・景観が資源として認識され、環境整備や保全活動を始め、未来へ棚田を継承する活動を開始。

取組概要

- 年間10～15組の棚田オーナーと交流、また、地元案内人と棚田巡り、地元食材を楽しむツアー(内子みそぎ自然浴ツアー)を開催。
- 学生が作業を手伝い、労働の対価として米を支給する「奨学米制度」に取り組む。
- 自治会でコミュニティカフェ、宿泊所を整備し、「泉谷の宿 花穂(かほ)」をオープン。
- 宿泊施設を活用し、移住者見学ツアーを実施。

取組成果

- 棚田を中心に長年交流の取り組みを行ったことで地域の認知度が向上。
- 棚田米の売上は、26万円から120万円に増加(H25→H29)。
- 内子みそぎ自然浴ツアーの参加人数は、50人から100人に増加(H25→H29)



高知県安芸市

あきし

山口

島根

鳥取

広島

岡山

自然・景観・
伝統・継承

地元食材の
提供・活用

その他
(地域おこし)

愛媛

香川

徳島

高知



No.14 入河内大根のこそう会

にゅうがうちだいこん

～「入河内大根」で地域おこし～

収穫体験後の調理交流



赤紫の首が特徴の入河内大根



入河内大根の収穫体験交流

取組経緯

- 入河内地区だけで栽培されてきた伝統野菜であった入河内大根が、他の大根と交雑して失われる危機に直面。
- 平成18年、地域の農家を中心に、入河内大根の栽培を通じた地域活性化のため、「入河内大根のこそう会」を結成。

取組概要

- 共同圃場(2a)を設け、会員が共同で栽培。収穫体験や調理の体験交流など、まちとむらの交流を促進。
- 野菜ソムリエ等を通じて、県内有名ホテルレストラン、料亭等に提供。
- 地元の指定管理者の温泉施設と連携し、「入河内大根」をメニュー化。
- 量販店や市場を通じた販路の拡大。

取組成果

- 入河内大根を使った料理がメニュー化され、高知県を代表する伝統野菜としても知名度が向上。
- 地区民に種を無料配布し、栽培人口が17人から24人に増加(H25→H29)。栽培面積も休耕田を活用し、30aから40aに増加(H25→H29)。
- 販路は現在4店舗まで拡大(量販店3店舗及び青果店1店舗)。



しまんとちよう
高知県四万十町

自然・景観・
伝統・継承

雇用

山口	島根	鳥取
	広島	岡山
愛媛		香川
		徳島
★ 高知		

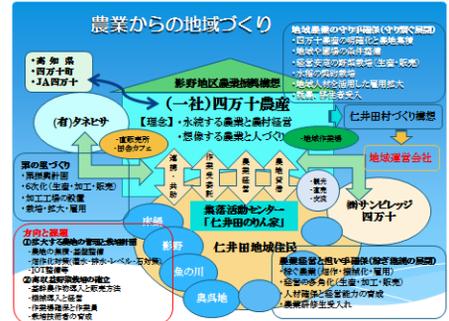
しまんと
No.15 株式会社 サンビレッジ四万十

～農業からの地域づくり～

組織の概要



サンビレッジ四万十の構成員



サンビレッジ四万十の野菜を直売

取組経緯

- 平成11年に設立した「影野の農業を考える会」を経て、平成13年に高知県初の「1集落1農場」方式による集落営農組織「ビレッジ影野営農組合」を設立。
- 雇用の確保、営農の継続性確保のため、平成22年に農事組合法人となり、平成26年に株式会社へ移行。

取組概要

- 経営の安定化に向け土地利用型園芸作物(ショウガ、サトイモ)を導入、規模拡大など経営の複合化に取り組む。
- 若い従業員5名の育成、集落内の女性8名を臨時雇用するなど、人材育成と雇用を創出。
- 環境に配慮したソーラーシェアリング、渡り鳥のえさ場とする冬季湛水、農道への梅の木の移植など多面的機能の増進。

取組成果

- 女性・高齢者の就労の受け皿になっており、「地域を守る法人」「就労の場」と認知度が向上中。
- 農地集積面積は11haから13haに増加、雇用人数は3名から5名に増加(H25→H29)
- 県外からの視察も増加(多い時には3～4回/月)。